

序文

2002 京都総会で採択された 121 条 3 項の方針に従って、新ジャッジングシステム(新システム)は開発され、試験を通して改良されてきた。システムを計画した通り適切に運用するために必要な技術規則は、理事会から ISU 通知 1207、1224、1242 が発行されている。

理事会は、フィギュアスケート・アイスダンス・シンクロナイズドスケーティングの各技術委員会と新システムを完全なものにするための新システム特別委員会の勧告を受け、新システムが使用に適し、すべての主要な ISU 競技会と多くの国際競技会で実施してもよいと考えた。特別委員会は次のフィギュアスケート専門家で構成されている。すなわち、Alexander Lakernik(ロシア、フィギュアスケート技術委員長)、Ann Shaw(カナダ、アイスダンス技術委員)、Marie Lundmark(フィンランド、ISU 理事、前シンクロナイズドスケーティング技術委員長)、Ted Barton(カナダ、ビデオ技術顧問、元フィギュアスケート選手、コーチ)、Peter Krick(ドイツ、ISU イベントコーディネーター、元フィギュアスケート選手)。新システム特別委員会は、多くの選手、コーチ、審判、統計学者、コンピューター専門家と緊密な協力を行ってきた。

実地試験での肯定的な経験に基づき、理事、各技術委員、新システム特別委員は全員一致して、新システムを支持し、序文の後に続ける新システムに関する特別規定が 2004ISU 総会フィギュアスケート部門において承認されることを勧告する。

2004ISU 総会フィギュアスケート部門においてこの提案が採択されれば、後に提案されている新しい特別規定が、一般規定の 121 条 3 項や、矛盾する特別規定、現在のジャッジングシステムを規定するための特別規定と置き換えられる。

フィギュアスケート・アイスダンス・シンクロナイズドスケーティングの各技術委員会は、特別規定が印刷される前にこの新しい規定に矛盾があると認めた場合、それを削除したり、他の規定に修正する権限を持つ。特別規定が印刷された後にそうした規定を認めた場合、各技術委員会は理事会に対して修正案を出し、理事会がこれを削除・修正する権限を持つ。

後の新システムの規定が採択されれば、これは 2004-2005 シーズンに有効となり、ISU のフィギュアスケート・アイスダンス・シンクロナイズドスケーティングの選手権大会、ならびに ISU グランプリ大会、ISU ジュニアグランプリ大会で強制される。2004-2005 シーズンの他の国際競技会で用いるかどうかは、加盟国が判断する。(すなわち、2004-2005 シーズンの間は、上記の大会以外の国際競技会については、その参加国が、新システムを使うか、いわゆる 6.0 システムを使うかの選択権を持つ。)

2005-2006 シーズンには後の新システムの規定が、すべての ISU 競技会、国際競技会、オリンピックで有効となる。

提案理由

これまでに、フィギュアスケートの「古い」6.0 システムに対する、メディアや、一般市民、いくつかのある加盟国からの批判が、さらに多く、さらに厳しくなってきた。一般的なシステムを部分的に改める提案は、2000 ケベック総会で理事会から出されたが、加盟国によって却下されている。

ISU に対する批判は、全く主観的で腐敗しやすい文化にではなく、明白な証拠が存在して罪を与えられる場合がほとんどないことに集中してきた。つまり、ジャッジの間でボディランゲージを使って信号を送っているところを録ったテープや、ジャッジによる自白書、ジャッジが証人として競技後に衝撃告白を行うなどのことがなければ、犯行を証明することも規律を正すこともできないと言うのである。

「古い」システムでは、ジャッジが黙っていたり、「私は見たとおりにジャッジした」と主張されたりして、犯行を客観的に証明することができなければ、成す術がない。

「古い」システムは、客観的なデータに欠け、ジャッジが自分の採点を頭の中に残しておくことができる、まったく閉鎖的な秘密投票である。ジャッジに自分の採点について弁明する余地を与えるが、それを証明・反論する客観的なデータは何一つない。

「古い」システムは、**それぞれの演技に対してたった 2 つの得点**だけであり、1 人だけ偏った採点があれば、常軌を逸した投票とみなされる。その 1 つのパターンが、ジャッジ本国の選手を他国より上位につけるもので、これはナショナルバイアス(自国偏重)であろう。

「古い」システムでは、常軌を逸したジャッジに対し、技術委員会は何十年もの間、警告や批判、助言など役に立たないことを記した書簡を送り、軽くたしなめることに努めてきた。ジャッジは書簡を受け取ったとしても、ジャッジとしての職務を続けてきたし、連盟が 1 年の権利停止となっても、ジャッジの改善には目立った効果はなかった。

ところが今までどの総会でも、**フィギュアスケートの主観的なジャッジングシステム**を包括的に変更する提案が加盟国からなされていない。

ソルトレイクの論争が、世界中のメディアや一般市民から起こされ、またスポーツの最高峰 IOC も、京都会議で読み上げられたとおりに、会長から書簡が送られている。改革が求められたのだ。そこで京都会議において、本質的に適切な結果を保障するだけでなく、客観的で検査可能なデータによりジャッジの異常を証明することができるという、より現代的、統計的な、コンピューターを用いたシステム、緊急提案 No.4 が承認された。

慣れ親しんだものは安心でき、変更するのは難しい。それゆえ、発案は懐疑的に見られた。しかし、新システムが示したスポーツの本質と透明性は、2003 年のネーベルホルントロフィ、GP 大会の結果を実際に決めるなど、広く試験を行ったこの 2 年近くの間、よく理解されるようになった。選手、コーチ、加盟国、また徐々にメディアや一般市民にも受け入れられ、賞賛されたことで、新システムを完成させたフィギュアスケートの専門家は満足している。

理事会、フィギュアスケート・アイスダンス・シンクロナイズドスケーティングの各技術委員会、新システム特別委員会はその上で、コンピューター技術の開発を進め、それにより各レベルすべての競技会において新システムを低コストで実施することができるようにする。さらに 2004 総会で新シ

システムが採択されれば、国際審判を広く訓練するプログラムが計画され、そのための予算も見積もられている。

フィギュアスケートのジャッジにおける信頼と安心を回復するため、理事会と技術委員会は一致して、すべての ISU 競技会、国際競技会で新システムを使用するための、新しい特別規定が採択されることを勧告する。

A. 一般規定

- a. **新ジャッジングシステム**は 2004 総会で承認されれば、後に述べる基準に基づく「ISU ジャッジングシステム」となって、2004-2005 シーズンに有効となり、ISU のフィギュアスケート・アイスダンス・シンクロナイズドスケATINGの選手権大会、ならびに ISU グランプリ大会、ISU ジュニアグランプリ大会で強制される。2004-2005 シーズンの他の国際競技会で用いるかどうかは、加盟国が判断する。(すなわち、2004-2005 シーズンの間は、上記の大会以外の国際競技会については、その参加国が、新システムを使うか、いわゆる 6.0 システムを使うかの選択権を持つ。)
2005-2006 シーズンには後の新システムの規定が、すべての ISU 競技会、国際競技会、オリンピックで有効となる。
- b. フィギュアスケート(シングル・ペア)、アイスダンス、シンクロナイズドスケATINGの競技会において、ISU は、競技(すなわち、ショートプログラム、フリースケATING、コンパルソリーダンス、オリジナルダンス、フリーダンス)を構成する各要素について、シングルスケATER、ペア、カップル、チームに対し得点を出す。
- c. 各スケATER、ペア、カップル、チームは、競技ごとに、要素とおおよその時間を示した「予定プログラム内容」を公式のフォームに記入し、提出すること。
- d. 加盟国は毎年(理事会が定めた期日内に)、推薦するジャッジのリストを ISU に提出すること。また加盟国は、テクニカルスペシャリスト・テクニカルコントローラーの候補者を ISU に推薦することができる。
- e. ISU 理事会は、技術委員会の勧告に従い、新ジャッジングシステムの下で ISU および国際レフェリー・ジャッジの資格がある者のリストを作成し、発行する。ISU の競技会におけるジャッジ団の構成は、別の規定にある手続きに従う。また、テクニカルスペシャリストのうち 102 条に該当しない者のリスト、テクニカルコントローラーのリストも発行する。
- f. 競技会における審判団は次のように決める。
最大 10 人のジャッジを、ISU が発行したジャッジ・レフェリーのリストから選んでおき、競技ごとにジャッジ団を構成する。
イベントレフェリーは、ISU が発行したレフェリーのリストから任命され、審判団と競技の監督を行う。シンクロナイズドスケATINGにおいては、さらにアシスタントイベントレフェリーを任命する。
10 人のジャッジとイベントレフェリーは、リンクサイドに座って競技を採点する。(シンクロナイズドスケATINGでは高い位置)
テクニカルスペシャリストとアシスタントテクニカルスペシャリストは、ISU が発行したテクニカルスペシャリストのリストから競技ごとに任命され、要素が演じられたかどうか、どの要素が演じられたかを判定する。また、テクニカルコントローラーが発行したテクニカルコントローラーのリストから競技ごとに任命され、テクニカルスペシャリストの判定を監督する。各競技のテクニカルスペシャリスト、アシスタントテクニカルスペシャリスト、テクニカルコントローラー、イベントレフェリーは、可能な限り異なる加盟国から選ばれる。ISU 競技会

(ISU 選手権大会、GP 大会シニア・ジュニア)、オリンピック、オリンピックの予選会では、イベントレフェリー、テクニカルスペシャリスト、テクニカルコントローラーは、ISU の公式リストから ISU 会長によって任命される。その他すべての国際競技会では、イベントレフェリー、テクニカルスペシャリスト、テクニカルコントローラーは、ISU の公式リストからその加盟国によって任命される。

g.

- i. ISU 選手権大会、GP 大会・ファイナル、オリンピック、オリンピック予選会では、極秘のコンピュータープログラムによってジャッジ団から 7 人のジャッジが選ばれ、その採点を用いて、スケーター、ペア、カップル、チームの結果と全体の結果を成す。この無作為抽出ではまたサブジャッジの序列を決定し、必要があれば、選ばれた 7 人のうちの 1 人ないしそれ以上のジャッジと置き換える。すべてのジャッジが採点するけれども、各競技ごとに異なる 7 人だけが、コンピューターによって選ばれる。競技の前後も最中も、どの 7 人が実際に競技を採点していることになっているかは、誰にも分からないようにする。

テクニカルスペシャリスト・テクニカルコントローラーが入力したものの、ジャッジ・イベントレフェリーの採点、その他のデータは、コンピューターによって処理される。裏にしまわれた各競技会のデータは ISU 事務局によって扱われ、またこれを表に出すことについての正当性は、公証人、法律家、監査役などの独立した個人が確認する。しかし、表に出すデータに関する情報は、必要に応じ、権限を与えられた、審判評価の手續きに従事している人物に対してのみ明かされる。

- ii. ジュニア GP 大会・ファイナルを含めその他の競技会(オリンピック予選会を除く)では、結果を成すジャッジを無作為抽出することはせず、すべてのジャッジの採点を集計する。ジャッジの名前とその採点は公表する。ジュニア GP 大会以外の国際競技会の開催国は、装置を利用することが可能で、ISU が認めれば、上の(i)と同じ極秘のコンピュータープログラムと手續きを使用することができる。
- h. ISU の競技会(選手権大会、シニアの GP シリーズ、その他可能など)では、ビデオ再生装置を備えたタッチスクリーンを用意する。
 - i. 各スケーター、ペア、カップル、チームは、それぞれのプログラムで演じた要素について、ISU の配点に従って得点が与えられる。また演じた要素について、演技の質(GOE)に応じた得点がジャッジによって加減される。GOE による得点も合わせた要素点の合計が、技術点である。
 - j. 技術点に加え、各ジャッジは選手の演技全体を評価する。これは最大 5 つのプログラム構成要素に分けられ、それぞれに対して 0.25 から 10 の範囲の、0.25 きざみの点数(構成点)をつける。係数をかけて、技術点と構成点のバランスを調整する。技術点と構成点は「中間平均」を用いて算定する。すなわち、最高最低を取り除き、残りを平均して求める。技術点と構成点を合わせて、競技得点(各スケーター・ペア・カップル・チームの総得点)とする。
 - k. フリースケーティング、フリーダンスにおいて「ウェルバランスプログラム」で許される要素の最大数は、ガイドラインで決める。
 - l. 各種目の競技後、テクニカルコントローラーとイベントレフェリーは、ジャッジと共に行う円卓会議の議長を務める。
 - m. 審判評価委員会(OAC)が理事会によって任命される。OAC は異なる国籍の ISU レフェリーで構成され、ジャッジングに明らかな異常が無いか検査し、技術委員会、ISU 事務局・理事会に発見したことを報告する。

- n. 明らかな、あるいは繰り返し現れた深刻なエラーやバイアスの責任があるジャッジについては、技術委員会の勧告に従って理事会が、その場で審査手続を適用する。
- o. ISU 競技会 (ISU 選手権大会、GP 大会シニア・ジュニア) に従事したすべての審判は、シーズンの終りに報酬を受け取る。資格停止中の審判には、当該シーズン全体に対して、報酬は与えられない。
- p. 理事会には、次の権限を認める。
 - i. フィギュアスケート、アイスダンス、シンクロナイズドスケーティング各技術委員会や専門家と協力して、新ジャッジングシステムが実施されているのを厳重に監視し、加盟国や役員、審判、スケーター、コーチから得られた情報を検討する。
 - ii. 特に配点について、2005ヨーロッパ選手権直後を初めに再評価を行い、新ジャッジングシステムを実施し続けるために必要な変更があれば採択する。
 - iii. 2004-05 シーズン以降の詳細について検討し、次を決定する。
 - a. 新ジャッジングシステムの規定に必要な追加・削除・修正すること。
 - b. 深刻な問題が発生し、新ジャッジングシステムを安全に実施し続けることが危うい場合に、いくつかの競技会で、あるいはオリンピックを含め認められたすべての競技会で、新ジャッジングシステムの適用を延期または停止すること。

理事会の決定は ISU 通知を発行し、2006 総会まで有効となる。

B. ショートプログラムの要求事項

ショートプログラムは、8つの必須要素とそれらをつなぐステップや動きで構成される。要素の順序は任意。要素は下の通り。

1. シングル・シニア
2. シングル・ジュニア
3. シングル・注意

以上はシングルのページを参照。

4. ペア・シニア
5. ペア・ジュニア
6. ペア・注意

以上はペアのページを参照。

C. フリースケーティングの要求事項

フリースケーティングは、ウェルバランスプログラム要素とそれらをつなぐステップや動きで構成される。プログラムに関する必要条件は下の通り。

1. シングル・シニア

2. シングル・ジュニア

3. シングル・注意

以上はシングルのページを参照。

4. ペア・シニア

5. ペア・ジュニア

6. ペア・注意

以上はペアのページを参照。

D. 採点

1. 技術点

(a) 配点

要素の配点表は下の(f)にある通り。必要に応じ、ISU 通知を発行する。配点(SOV)は、基礎点と、演技の質に応じた演技点からなる。

基礎点は点数で表された評価であり、要素の難しさが増すに従い高くなっている。
要素の難しさは次による。

- ジャンプ、スロージャンプ…種類(トゥーループ、サルコウ、ループ、フリップ、ルッツ、アクセルの順)と回転数
- リフト…グループ(1~5)と要素のレベル
- その他…要素のレベル

(b) 要素のレベル

テクニカルスペシャリストが、要素の名前と(必要に応じ)レベルを判定する。
リフト、デススパイラル、スピンのステップ・スパイラルは難しさにより3つのレベルに分けられている。レベル1:簡単なもの、レベル2:やや難しいもの、レベル3:特に難しいもの
要素のレベルを決めるための特徴の詳細については、ISU 通知を発行する。

(c) 演技の質(GOE)

演技のプラス面・エラーによる質は、すべてのジャッジが7段階(+3、+2、+1、Base Value、-1、-2、-3)で判定する。ジャッジは初めに、要素にプラス面があればBase Value から+方向へ増やし、それから、エラーを犯していればその結果から減らしていく。各+、-に対しては配点表に示した

点数(演技点)があり、この点数が要素の基礎点から加減される。
採点のガイドラインについては、通知を発行する。

注意

ジャンプコンビネーション、ジャンプシークエンスは「1つの要素」として評価する。

ジャンプコンビネーション:基礎点は、含まれるジャンプの基礎点を足す。演技点は、基礎点の最も高いジャンプによる。

ジャンプシークエンス:基礎点は、ジャンプの基礎点のうち高い2つを足し、これに0.8をかける。
演技点は、その2つのうち基礎点の高いジャンプによる。

(d)違反要素

- 宙返りのようなジャンプ
- 間違っただホルドでのリフト
- 男性が3回転半を超えて行うリフト
- 男性が女性の手や足を持って振り回すスピン動作
- 女性がツイストのようにスケーティングフットを氷から離して回転させる動き
- 1人がもう1人の足や腕、首をつかんで回転させる動き
- 1人がもう1人へ向かってするジャンプ
- 横になったり、両膝を着いて滑る・静止しているもの

(e)ボーナス

ユニークで、特殊な、革新的動作については、ウェルバランスの要素数の範囲で、かつウェルバランスのリストにない特別な要素であれば、ボーナスを受け取る。ボーナスはテクニカルスペシャリストが判定し、テクニカルコントローラーがそれを確認、ただちにISU事務局へ報告される。

(f)配点表

各種目のページを参照。

2. 構成点

技術点に加え、各ジャッジは選手の演技全体を評価する。これは5つのプログラム構成要素に分けられる。すなわち、スケート技術、要素のつなぎ、演技力、振付け、曲の解釈である。

(a)プログラム構成要素の定義

スケート技術(スケーティングスキル)

リンク上を移動するために用いた方法。スピード、流れ、エッジの質に関連した動きの効率を評価する。

スケート技術の評価には、次のことが考慮される。

- 全体的なスケーティングの質
- 多方向へのスケーティング
- スピードとパワー
- エッジのクリーンさと確実さ
- 滑りと流れ
- (ペア)パートナー間のスケート能力のバランス
- (ペア)ユニゾン

要素のつながり(トランジション)

プログラムのハイライトをつなぐスケーティングステップ・要素。プログラムのハイライトをつないだりその価値を高めることによって、要素が孤立せずにプログラムの一部をなすような、いろいろなステップや動き、要素を評価する。

要素のつながりの評価には、次のことが考慮される。

- 要素をつなぐステップの難しさと質
- 要素をつなぐステップの創造性と独創性
- 要素の入り方と出方の独創性と難しさ
- (ペア)ユニゾン

演技力(パフォーマンス)

選手が意識して体の外に映し出している感じのよさ。体の線や身のこなし、要素のハイライトを表現する際のバランスを評価する。

演技力の評価には、次のことが考慮される。

- 身のこなし
- スタイル
- 姿勢
- スピードの変化
- (ペア)ユニゾン
- (ペア)パートナー間の演技のバランス

振付け(コレオグラフィ)

要素やそれらをつなぐステップに関連したプログラムのレイアウト。プログラムのハイライトがリンク上に等しく分布された上で、選手は能力を示すべきである。リンク全体や、周囲の空間の高低を利用できているかを評価する。

振付けの評価には、次のことが考慮される。

- 調和のとれたプログラム構成
- 創造性と独創性

- 要素やステップ、動きの音楽との一致
- プログラムパターンの独創性、難しさ、多様さ
- ハイライトの分布
- 空間とリンクの利用
- (ペア)ユニゾン

曲の解釈(インタープリテーション)

選んだ音楽の雰囲気と特徴を外に表現する体の使い方とスケート要素。技術要素やつなぎのステップ、振付けを駆使して選んだ音楽を構成していき、その雰囲気と印象、特徴を表現しているかを評価する。

曲の解釈の評価には、次のことが考慮される。

- 音楽に合わせる楽な動きと確実さ
- 音楽のフレーズを表現する巧みさと微妙さ
- 音楽のスタイルと特徴の表現
- 音楽の構成に関する情緒・想像力
- 要素やステップ、動きの音楽との一致
- (ペア)ユニゾン

(b)プログラム構成要素の採点

プログラム構成要素は、演技後ジャッジにより、0.25 から 10 の範囲の、0.25 きざみの点数で評価される。点数は次の段階に対応している。<1:とても劣っている、1:劣っている、2:弱い、3:まずまず、4:平均的、5:中の上、6:良い、7:とても良い、8:優れている、9-10:とても優れている。端数は、ある段階とその次の段階の特徴を併せ持っている演技に対して用いられる。採点のガイドラインについては ISU 通知を発行する。

(c)減点

規定違反それぞれに対して適用される(F. 集計 を参照)。

F. 集計

1. 集計の基本原則

シングルのページを参照。

2. 各競技結果

- 各競技(ショートプログラム、フリースケーティング)における競技者・ペアの得点は、総技術点と総構成点を足し、プログラム減点を差し引いて求められる。
- 競技得点の最も高い競技者・ペアが 1 位、競技得点の 2 番目に高い競技者・ペアが 2 位などとなる。

- c. 2人・組以上が同点となった場合、ショートプログラムでは総技術点で、フリースケーティングでは総構成点で決着をつける。それも等しい場合、当該競技者・ペアは同点とする。

3. 競技結果の結合と最終結果

- a. ショートプログラム、フリースケーティングの競技得点を足し、その結果が競技会の最終得点(総合得点)となる。最終得点の最も高い競技者・ペアが1位などとなる。
- b. 選手権大会で予選(フリースケーティング)が行われた場合、この予選の競技得点には0.25をかけて、(ショートプログラム、フリースケーティング後の)総合得点に加える。
- c. ある競技後に総合得点が同点となった場合は、その競技の競技得点の高い競技者・ペアが上位となる。
- d. その競技得点も同点ならば、その前の競技の順位で決める。それがなければ、この競技者・ペアは同点とする。

4. 結果の公表

- a. 競技会・選手権大会における各競技の順位は、全競技者・ペアが競技を終了すれば直ちに公表すること。
- b. 各競技後には、各競技者・ペアの、総技術点、各プログラム構成要素に対するジャッジ団としての得点、総構成点、減点、競技得点を公表すること。
- c. 各競技後には、「各競技者・ペアに対するジャッジの詳細」を印刷したものが発行される。これには、すべて要素の基礎点、すべてのジャッジによる演技の質、各構成点が、ジャッジの名前を特定できないよう順不同で記されている。
- d. 最終結果は、全競技が終了次第、できるだけ速やかに公表すること。これには、各競技者・ペアの最終順位、競技ごとの順位が示されていなければならない。
- e. 競技会が終了すれば、各競技者・ペアの総合得点(最終得点)を公表すること。
- f. 項目 a. b. d. e. は、競技会・選手権大会の記録(プロトコル)についても該当する。

B. コンパルソリーダンス

1. 全般的な要求事項

- a. 正確さ: ステップ、エッジ、要素・動作、ダンスホールドは、ダンスの説明と規定に従うこと。基本的な要求を概ね満たしていれば、カップルには、腕や足の動きに変化をつけるなどして、個々のスタイルを示す自由がある。腕や手の動き・ポジションがダンスの説明にあるものと異なっても、男性のリードしている手がホールドの規定ポジションを守っていれば許される。
- b. 配置: ダンスのパターンは規定に従うこと。深いエッジと良い流れによって、リンクを最大限に利用することが望まれる。フラットや浅いエッジでは十分に動き回ることはいできない。規定サイズのリンクでは、リンクの長軸を横切ってはいけない。規定より小さいサイズのリンクでは、リンクの幅に応じて長軸を横切ってもよい。
- c. スケート技術: 基本的なスケートの質が求められる。ディープエッジで楽にスピード、流れ、滑りのあるスケートをするべきである。ステップ、エッジ、ローブのクリーンさと正確さから明らかになる。スケーターは滑っている足に体重を乗せるように。フットワークはきちんと正確に行わなければならない。要求されているところ以外では、両足滑走は避けるこ

と。両パートナーに等しく高い技術力が求められる。滑っている足のひざはリズムカルに曲げ伸ばし、シャッセやランでは足を氷面からあまり持ち上げないように。

- d. タイミング：（特に指定がない限り）はっきりした旋律が始まってから9小節以内にダンスをスタートさせ、音楽に正確に合わせて滑らなければならない。各ステップ・動作に費やすビート数は規定に従う。すべての動作が音楽のリズムと調和し、すべてのステップが途切れることなく連続して行われること。
- e. スタイル：身のこなしについては、頭を上げ、まっすぐ楽にするように。すべての動きが楽に、流れるように、エレガントな方法で演じられるのがよい。ダンスホールドはしっかりしなければならないが、指は広がったり握り締めたりするべきではない。スピードを出すために、必死になっているのが明らかだったり、スタイルを犠牲にしていたりするのはよくない。フリーレグは伸ばし、つま先は返して下に向けるように。
- f. ユニゾン：カップルはできるだけ一定の距離で密接して滑るべきである。足の振りやひざの曲げ伸ばしは等しく、よく調和し、演技のバランスがとれているように。両者が1つであるかのように動いているのがよい。男性はリードする能力を、女性は付き従う能力を示すように。
- g. 曲の解釈：音楽の特徴を正しく解釈し、滑らかに、リズムカルに滑ること。そうした解釈は、音楽のリズムを反映させたダンス動作の多様な表現によって示され、そして全体としてダンスにはっきりとした趣を添える。パートナーは互いに関わりあうように。

2. 必須区分

採点のため、またビデオ再生のため、コンパルソリーダンスのパターンは適当な数の区分に分ける。各ダンスの区分の数は、その長さ(ステップの数)やシーケンスの数による。各コンパルソリーダンスの必須区分とその価値については、通知を発行する。

C. オリジナルダンス

1. 全般的な要求事項

- a. オリジナルダンスは、指定されたリズムに対して選んだダンス音楽に合わせ、創作ダンスをカップルが滑るものである。ダンスリズムに説明されている特長を反映させ、流れやエッジを伴ったステップや動きの技術を示しながらリンクに表現しなければならない。リズム、テンポの許容範囲、演技時間、変更点は、アイスダンス技術委員会が1年ごとに2年先まで決定し、ガイドラインの通知を発行する。
- b. 選んだリズムに合わない曲を選んだ場合は、厳しく罰せられる。歌詞の入ったボーカル音楽は許される。リズムカルなビートのある曲のみ使用でき、カップルはそれに合わせて滑ること。メロディのみに合わせてはいけない。許される範囲でテンポに変化をつけるのはよい。音楽は2曲または3曲を選んで使うことができる。それらのテンポは異なってもよいが、許される範囲であること。複数のリズムが指定された年のカップルは、選んだリズムと演技する順序を書いたリストを、競技のレフェリーとジャッジへの情報として、音楽の登録の際に提出すること。
オリジナルダンスの音楽のイントロは、最長10秒間、ビートまたはメロディがなくてもよい。

- c. オリジナルダンスの演技時間は、1年ごとにアイスダンス技術委員会が指定する。時間は、カップルの1人が動き始めるか、または滑り出してから、プログラムの終りに完全に静止するまで計る。
- d. 必須のステップシーケンスの間を除き、ダンスのパターンは全体として一定方向(時計回りまたは反時計回り)に進むこと。長軸を横切るのは、リンクの両端(フェンスから20m以内)での1回だけ。長軸を横切らなければ、ループはどちらの方向に行ってもよい。
- e. すべてのステップ、ターン、回転、ポジション変化が許される。ただし、指定されたリズムと選んだ音楽に適していること。どんなステップでも繰り返してよい。両者には、難しく、独創的で、変化に富んだ、複雑なフットワークが求められる。シャッセやプログレッシブ(ラン)、ポーズ、一定方向へのスケートに大部分を頼っているプログラムは、エッジチェンジやロッカー、チョクトー、その他同様のステップやターン、他方向へのスケートを含むものに比べ、難度が低いとみなされる。トゥステップは許されない。各パートナーとも一方のスケートが常に氷面についていること。1人でも両者でも過度の両足滑走は、スケートやバランスをとる能力の無さを示しているとみなされる。ただし、1人または両者が両足で行うハイライトを、1度だけ入れてもよい(最長5秒間)。両膝を氷面につけたり、ついて滑る、または手が氷面に触れることは許されない。演技がリンク全体に広く振付けられたプログラムは、片側(ジャッジサイド)に偏ったものより優れている。
- f. パートナーは、ダンスホールドを変更する間や、ミッドラインステップシーケンス、許されているストップの演技を除き、離れてはならない。ダンスホールドの変更は音楽の1小節を越えないこと。プログラムの初めと終りの最大10秒間は離れてもよい。
- g. 腕を伸ばしたハンドインハンドホールドを除き、ダンスホールドに関する制限はない。
- h. 完全なストップは2度まで許される(最長各5秒間)。選んだ音楽に適していれば、(両手間隔まで離れることを含め)どのような振付けでも行ってよい。初めに動き出してから、カップルは10秒以上1ヶ所に留まってはならない。

2. 必須要素

アイスダンスのページを参照。

D. フリーダンス

1. 全般的な要求事項

- a. フリーダンスは、カップルが滑る創造的なプログラムで、ダンスステップ・動作を用いて選んだ音楽の特徴を表現するものである。
フリーダンスでは、必須の要素やステップシーケンスを含めてステップ・動作の新しいものや知られているものを組み合わせ、スケート技術の高さや、カップルが考えた概念、脚色、表現を示したプログラムにしなければならない。(必須要素も含め)振付けは、選んだ音楽の特徴、アクセント、ニュアンスをはっきりと反映させ、ペースの切り替えやスピード・テンポの変化を示し、リンク全体を利用するように。
フリーダンスには、ペアのフリープログラムやエキジビションダンスの概念があってはならない。
- b. ジュニアの演技時間は3分、シニアは4分である。10秒以内の過不足は許される。時間は、カップルの1人が動き始めるか、または滑り出してから、プログラムの終りに完全に静止するまで計る。

- c. フリーダンスの音楽は、ヴォーカル音楽でもよいが、はっきりしたリズムカルなビートとメロディがあるものか、またははっきりしたリズムカルなビートのみのものでなければならず、メロディだけのものはいけない。カップルは主としてリズムカルなビートに合わせて滑り、メロディだけに合わせないように。テンポが変化していたり、メロディだけでなくリズムカルなビートやアクセントもバランスよく使われているプログラムは、ダンス技術の多様さを示し、競技スポーツとしてのアイスダンスの概念を反映させているものとして、高く評価される。タイミングが合っていなかったり音楽の雰囲気と異なる滑りは罰せられる。カップルは音楽登録の際に、レフェリーやジャッジへの情報として、選んだ音楽の名前か、またはプログラムのタイトルやテーマを提出すること。
- d. すべてのステップやターンが許される。深いエッジと複雑なフットワークで、スケート技術、難しさ、多様さ、独創性を示すことが、両パートナーの演技に求められる。クロスカットや単純なストローク、ラン、長い停止、ポーズに大部分を頼っているプログラムは、要求されている難しさや複雑さ、ダンスフットワーク(例えば、スリー、モホーク、チョクトー、ロッカー、カウンター、ブラケット、トゥイズルなど)の多様さが充分でないとみなされる。演技がリンク全体に広く振付けられたプログラムは、片側(ジャッジサイド)に偏ったものより優れている。
- e. 要素・動作は、音楽の特徴とウェルバランスに合っていればよい。リフト、ジャンプ、ダンスジャンプ、ホップ、ダンススピン、ピルエット、その他のダンス動作は、規定 504 条の定義に従うこと。
- f. 規定 313 条に定義されているペアスケATINGの要素は(スパイラル、スピン、ステップシークエンスを含め)許されない。
- g. 複雑なフットワークを行うために離れることに関して、数に制限はない。ただし、両パートナーの間は両手の幅を超えないこと。また、それぞれ 5 秒までである。ダンスの初めと終りに離れるのは 10 秒までで、距離に制限はない。
- h. すべてのホールドのチェンジが許される。多様なダンスホールドはプログラムの難度を高めるので、入れるようにするべきである。向かい合って滑るのは、サイドバイサイドや、ハンドインハンド、または離れたり、代わる代わる滑るものより難しい。
- i. 完全な停止、すなわち、カップルがリンクの 1 ヶ所に止まり、体を動かしたり、よじったり、ポーズをとったりするのは、5 秒まで許される。
- j. プログラムは、スケートの質によって高められるべきで、ひざで滑るのを繰り返したり、トゥステップを使ったりするのはあまりよくない。

2. ウェルバランス・シニア

3. ウェルバランス・ジュニア

以上はアイスダンスのページを参照。

E. 採点

1. 技術点

(a) 配点

コンパルソリーダンスの配点表は、毎年ダンスが変わるごとに発行する。オリジナルダンスとフリーダンスの必須要素の配点表は(e)にある通り。必要に応じ、通知を発行する。配点(SOV)は、基礎点と、演技の質に応じた演技点からなる。

基礎点は点数で表された評価であり、要素・区分の難しさが増すに従い高くなっている。

コンパルソリーダンスの区分の難しさは、その区分に含まれるステップや動きの難しさによって決められている。

オリジナルダンスとフリーダンスの必須要素の難しさは、レベルによって決められている。

(b)要素のレベル

テクニカルスペシャリストが、オリジナルダンスとフリーダンスのすべての必須要素について、その名前とレベルを判定する。

すべての要素は、その難しさにより3つ以上のレベルに分けられている。例えば、レベル1:簡単なもの、レベル2:やや難しいもの、レベル3:特に難しいもの

要素のレベルを決めるための特徴の詳細については、ISU 通知を発行する。

(c)演技の質(GOE)

コンパルソリーダンスの各区分におけるスケートの質や、オリジナルダンスとフリーダンスの必須要素における演技のプラス面・エラーによる質は、すべてのジャッジが7段階(+3、+2、+1、Base Value、-1、-2、-3)で判定する。各+、-に対しては配点表に示した点数(演技点)があり、この点数が要素・区分の基礎点から加減される。採点のガイドラインについては、通知を発行する。

(d)違反要素・動作

- アクロバットなリフト
- 許容時間を超えるリフト
- 1回転を超えるジャンプ
- 両膝を氷面につく
- 手を氷面に触れて滑る(初めと終りを含めて何時でも)
- 氷面に横たわる

(e)配点表

アイスダンスのページを参照。

2. 構成点

(a)プログラム構成要素の定義

技術点に加え、各ジャッジは選手の演技全体を評価する。これは、コンパルソリーダンスでは4つのプログラム構成要素(スケート技術、タイミング、演技力、曲の解釈)に、オリジナルダンスとフリーダンスでは5つのプログラム構成要素(スケート技術、要素のつながり、演技力、振付け、曲の解釈)に分けられる。

(i)コンパルソリーダンス(4 構成要素)

スケート技術(スケーティングスキル)

ダンスステップを行ったりリンク上で動くために用いた方法と、スピードや流れ、エッジの質に関する動きの効率。

スケート技術の評価には、次のことが考慮される。

- 全体的なスケーティングの質
- エッジの深さと質、移動距離
- 滑りと流れ
- スピードとパワー
- ステップのクリーンさと確実さ
- パートナー間の技術・スケート能力のバランス

タイミング

音楽に合わせて正確に滑り、リズムやビートの強弱を正しく反映させる能力。

タイミングの評価には、次のことが考慮される。

- 音楽に合わせたスケーティング
- 強拍でのスケーティング
- 各ステップについて、ビートの強弱に合ったスケーティング
- 助走のステップ

演技力(パフォーマンス)

ユニゾン、姿勢、身のこなし、スタイル、演技のバランスを示しながら、意識的に体の外に映し出されている感じのよさ。

演技力の評価には、次のことが考慮される。

- ユニゾンと姿勢
- パートナーの距離
- 身のこなしとスタイル
- パートナー間の演技のバランス

曲の解釈(インタープリテーション)

体の動き、ステップ、ホールドを使って、雰囲気、印象、ダンスのリズムの特徴を表現し、音楽を構成していく能力。

曲の解釈の評価には、次のことが考慮される。

- リズムの特徴の表現
- ダンスの特徴に合わせたパートナーの関係

(ii)オリジナルダンスとフリーダンス(5 構成要素)

スケート技術(スケーティングスキル)

ダンスステップを行ったりリンク上で動くために用いた方法と、スピードや流れ、エッジの質に関する動きの効率。

スケート技術の評価には、次のことが考慮される。

- 全体的なスケーティングの質
- エッジの深さと質
- 滑りと流れ
- スピードとパワー
- ステップのクリーンさと確実さ
- 片足のスケーティング
- 多方向へのスケーティング
- パートナー間の技術・スケート能力のバランス

要素のつながり(リンキングフットワーク)

主にホールドした状態での、必須要素やハイライトをつなぐ様々なダンスステップや動作による滑り。難しく多様なフットワーク、ダンスホールド、動作を充実させることで、プログラムの評価は高くなる。

要素のつながりの評価には、次のことが考慮される。

- つなぎのフットワーク・動作の難しさ、複雑さ、多様さの充実度
- ダンスホールドの多様性(ハンドインハンドや、サイドバイサイドに偏らないように)
- パートナー間の運動量のバランス
- 要求されているパターンと停止の一致(オリジナルダンス)

演技力(パフォーマンス)

ユニゾン、姿勢、身のこなし、スタイル、スピードの変化、演技のバランスを示しながら要素やハイライトを演じ、それによって意識的に体の外に映し出されている感じのよさ。

演技力の評価には、次のことが考慮される。

- ユニゾンと姿勢
- 身のこなしとスタイル
- スピードの変化
- パートナー間の演技のバランス

- 表現力

振付け(コレオグラフィ)

音楽、ステップ、動作、ハイライト、必須要素、リンク全体を使って構成された、独創的で調和のとれた想像力。

振付けの評価には、次のことが考慮される。

- 調和のとれたプログラム構成と、音楽との適合性
- 独創性と創造性
- 要素やステップ、動きの音楽との一致
- ハイライトの分布と、プログラムパターンの多様さ
- 空間とリンクの利用

曲の解釈(インタープリテーション)

選んだ音楽の適正と、雰囲気、印象、音楽の特徴とニュアンスを表現する能力。オリジナルダンスでは音楽のビートに合わせた滑り、フリーダンスでは主にリズムカルなビートにあわせた滑り。

曲の解釈の評価には、次のことが考慮される。

- 音楽の適正
- 音楽のビートに合わせた滑り(オリジナルダンス)
- 音楽のリズムカルなビートにあわせた滑り(フリーダンス)
- 音楽に合わせる楽な動きと確実さ
- 音楽のリズムの特徴の表現
- 音楽のアクセントやニュアンス、ペースの変化の表現
- 音楽の特徴に合わせたパートナーの関係

(b)プログラム構成要素の採点

プログラム構成要素は、演技後ジャッジにより、0.25 から 10 の範囲の、0.25 きざみの点数で評価される。点数は次の段階に対応している。1:とても劣っている、2:劣っている、3:弱い、4:まずまず、5:平均的、6:中の上、7:良い、8:とても良い、9:優れている、10:とても優れている。端数は、ある段階とその次の段階の特徴を併せ持っている演技に対して用いられる。

採点のガイドラインについては ISU 通知を発行する。

(c)減点

規定違反それぞれに対して適用される(G. 集計 を参照)。

G. 集計

1. 集計の基本原則

シングルのページを参照。

2. 各競技結果

- a. 各競技(コンパルソリーダンス、オリジナルダンス、フリーダンス)における得点は、総技術点と総構成点を足し、プログラム減点を差し引いて求められる。
- b. コンパルソリーダンスが2課題の場合、各ダンスの得点を0.5倍する。
- c. 競技得点の最も高いカップルが1位、競技得点の2番目に高いカップルが2位などとなる。
- d. 2カップル以上が同点となった場合、コンパルソリーダンスでは総技術点で、オリジナルダンス、フリーダンスでは総構成点で決着をつける。それも等しい場合、当該カップルは同点とする。

3. 競技結果の結合と最終結果

- a. コンパルソリーダンス、オリジナルダンス、フリーダンスの競技得点を足し、その結果が競技会の最終得点(総合得点)となる。最終得点の最も高いカップルが1位などとなる。
- b. ある競技後に総合得点が同点となった場合は、その競技の競技得点の高いカップルが上位となる。コンパルソリーダンスが2課題の場合、各ダンスの価値は等しく、第2ダンスで決着をつけることはしない。
- c. その競技得点も同点ならば、その前の競技の順位で決める。それがなければ、このカップルは同点とする。

4. 結果の公表

- a. 競技会・選手権大会における各競技の順位は、全カップルが競技を終了すれば直ちに公表すること。
- b. 各競技後には、各カップルの、総技術点、各プログラム構成要素に対するジャッジ団としての得点、総構成点、減点、競技得点を公表すること。
- c. 各競技後には、「各カップルに対するジャッジの詳細」を印刷したものが発行される。これには、すべて要素の基礎点、すべてのジャッジによる演技の質、各構成点が、ジャッジの名前を特定できないよう順不同で記されている。
- d. 最終結果は、全競技が終了次第、できるだけ速やかに公表すること。これには、各カップルの最終順位、競技ごとの順位が示されていなければならない。
- e. 競技会が終了すれば、各カップルの総合得点(最終得点)を公表すること。
- f. 項目 a. b. d. e. は、競技会・選手権大会の記録(プロトコル)についても該当する。

電子採点・掲示システム(シングル・ペア:E. アイスダンス:F.)

(a) ジャッジスクリーン

各ジャッジは、ビデオ再生装置を備えたタッチスクリーンが用意され、個別にこれ进行操作する。各ジャッジが入力した採点は、コンピューターで集計される。

(b) ビデオ再生装置

ISU の許可を受けたビデオ再生装置が各競技で使われる。

(c) 得点の電光掲示(スコアボード)

選手権大会では必ず電光掲示板を使用すること。

スコアボードには、次のものが表示されなければならない。

技術点、各構成点、競技得点、競技の暫定順位、総合得点とその暫定順位。

審判(シングル・ペア:G. アイスダンス:H.)

1. 審判の選出と職務

テクニカルスペシャリスト

テクニカルスペシャリスト、アシスタントテクニカルスペシャリストは、加盟国の推薦に基づいて、コーチ、ISU・国際ジャッジ、ISU・国際レフェリーから募り、さらに次を満たす。

- フィギュアスケート(シングル)、ペアスケートティング、アイスダンス、シンクロナイズドスケートティングの技術に関して高い知識を持っている
- 最低週 1 回は、その種目に従事している
- 高いレベルの元スケーター(最低ナショナルレベル)
- 英語の口語について高い知識を持っている
- 高いコミュニケーション能力を有する
- 集団の中で指導力を発揮できる
- ISU セミナーを修了し、試験を合格している

理事会は、テクニカルスペシャリストの ISU リストを確認し、発行する。

ISU 競技会、すなわち ISU 選手権大会、ISU グランプリ大会(シニア・ジュニア)、オリンピック、オリンピック予選会では、テクニカルスペシャリスト、アシスタントテクニカルスペシャリストは、公式の ISU リストから ISU 会長によって任命される。

その他の国際競技会では、テクニカルスペシャリスト、アシスタントテクニカルスペシャリストは、公式の ISU リストから開催国によって任命される。

任命されるテクニカルスペシャリスト、アシスタントテクニカルスペシャリスト、テクニカルコントローラー、イベントレフェリーは、各競技ごとに、可能な限り異なる加盟国の者で構成されなければならない。

テクニカルスペシャリストの職務は次の通り。

- 演じられた要素を判定し、宣言する
- 演じられた要素の正しいレベルを判定し、宣言する
- 違反要素を判定する
- (シングル・ペアで)革新的要素のボーナスを判定する

- 追加要素を判定・削除する

アシスタントテクニカルスペシャリストも、判定を担う。

テクニカルコントローラー

テクニカルコントローラーは、加盟国の推薦に基づいて、新ジャッジングシステムにおいて資格があり、技術委員会によって確認されたISUレフェリー・ジャッジ、国際レフェリーのリストから募り、さらに次を満たす。

- フィギュアスケート(シングル)、ペアスケーティング、アイスダンス、シンクロナイズドスケーティングの技術に関して高い知識を持っている
- 英語の口語について高い知識を持っている
- 高いコミュニケーション能力を有する
- 集団の中で指導力を発揮できる
- ISU セミナーを修了している

理事会は、テクニカルコントローラーの ISU リストを確認し、発行する。

ISU 競技会、すなわち ISU 選手権大会、ISU グランプリ大会(シニア・ジュニア)、オリンピック、オリンピック予選会では、テクニカルコントローラーは、公式の ISU リストから ISU 会長によって任命される。

その他の国際競技会では、テクニカルコントローラーは、公式の ISU リストから開催国によって任命される。

任命されるテクニカルスペシャリスト、アシスタントテクニカルスペシャリスト、テクニカルコントローラー、イベントレフェリーは、各競技ごとに、可能な限り異なる加盟国の者で構成されなければならない。

テクニカルコントローラーの職務は次の通り。

- テクニカルスペシャリストの宣言を監督、(必要があれば)訂正し、要素の名前と正しいレベルを入力する。ただし、2人のテクニカルスペシャリストがその訂正に同意しなければ、彼らによる初めの判定が生きる。
- 要素の削除を承認、または訂正する
- 違反要素の判定を承認、または訂正する
- (シングル・ペアで)革新的要素を確認、または訂正する
- 表彰式に参加する
- イベントレフェリーと共に円卓会議の議長を務める。(これは、現在の規定の適用や妥当性に関してジャッジの間でフィードバックしたり、全般的なスケートの質について議論したりするために行う。)テクニカルコントローラーは主に、技術点に関する入力に関与する。このために、可能ならば各要素の演技の質を判定しておく。
- イベントレフェリーがレポートを作成するのを手伝う

データオペレーター・リプレイオペレーター

データオペレーター・リプレイオペレーターは、スケーター、コーチ、ジャッジ、レフェリー(国内・国際)から募り、さらに次を満たす。

- フィギュアスケート(シングル)、ペアスケーティング、アイスダンス、シンクロナイズドスケーティングの技術に関して高い知識を持っている
- 英語の口語について高い知識を持っている
- 高いコミュニケーション能力を有する
- 高いコンピューター技術を持ち、タッチスクリーンに精通している
- 集団の中で指導力を発揮できる
- ISU セミナーを修了し、試験を合格している

データオペレーター・リプレイオペレーターの職務は次の通り。

- 宣言された要素を入力する
- 宣言された要素のレベルを入力する
- テクニカルコントローラーの指示に従って要素・レベルの訂正する
- コンピューターにより追加要素と判別されたものを、テクニカルスペシャリスト、テクニカルコントローラーに知らせる
- 減点が判定されれば、これを入力する
- (シングル・ペアで)テクニカルコントローラーの指示に従ってボーナスを入力する
- テクニカルスペシャリスト、テクニカルコントローラーを支援する
- 各競技前に行うテクニカルスペシャリストの話し合いに参加する

ISU 競技会、すなわち ISU 選手権大会、ISU グランプリ大会(シニア・ジュニア)、オリンピック、オリンピック予選会では、データオペレーター・リプレイオペレーターは、ISU 事務局長が、他の ISU 役員(副会長・技術委員長)との協議の上、任命する。

その他の国際競技会では、データオペレーター・リプレイオペレーターは、開催国によって任命される。

イベントレフェリー

ISU 競技会、すなわち ISU 選手権大会、ISU グランプリ大会(シニア・ジュニア)、オリンピック、オリンピック予選会では、イベントレフェリーは、新システムでの資格を持つ ISU レフェリーから任命される。

その他の国際競技会では、イベントレフェリーは、新システムでの資格を持つ ISU・国際レフェリーから開催国によって任命される。

任命されるテクニカルスペシャリスト、アシスタントテクニカルスペシャリスト、テクニカルコントローラー、イベントレフェリーは、各競技ごとに、可能な限り異なる加盟国の者で構成されなければならない。

イベントレフェリーの職務は次の通り。

- ISU イベントコーディネーターがいない場合に、すべての規定の適格性を検査し、その認可証を発行する

- すべての抽選を監督する
- ジャッジ団を管理する
- 各競技前にジャッジとの簡単な話し合いを持つ
- 競技者の音楽を始めるよう、担当者に合図を送る
- 規定 351 条(アイスダンスではさらに 538 条)に基づき、競技の再開を許可する
- 規定に従い、すべての減点を決定する
- 競技が公然と妨害されたり、秩序が乱れたりした場合に、それらが回復するまで競技を中断する
- 競技会に関するすべての抗議を決定する
- 必要ならば、競技者を競技会から退場させる
- 重大な理由があり必要ならば、審判を交代させる
- ISU 憲章・規定の違反に関して決定する
- 表彰式に参加する
- テクニカルコントローラーと共に円卓会議の議長を務める。(これは、現在の規定の適用や妥当性に関してジャッジの間でフィードバックしたり、全般的なスケートの質について議論したりするために行う。) イベントレフェリーは主に、構成点に関する入力に関与する。このために、各構成要素を採点しておく。
- テクニカルコントローラーの助けを受け、レポートを作成する

2. ジャッジ団の構成と任命

ISU 選手権大会、オリンピックでは、ジャッジ団は新システムでの資格を持つ ISU レフェリー・ジャッジのみで構成される。

国際競技会では、ジャッジ団は新システムでの資格を持つ ISU または国際レフェリー・ジャッジのみで構成される。

3. 円卓会議

- a. 各種目の競技後、テクニカルコントローラーとイベントレフェリーは、ジャッジと共に行う円卓会議の議長を務める。会議では、全般的なスケートの質や、選手の要素・区分に対する得点や各構成点の幅について話し合う。会議の目的は、全員の意見を一致させ、審判が将来採点するためのガイドラインの助けとすることである。円卓会議では、得点の許容範囲は定めない。これは、下にある第 5 項の c. に示した OAC で決められる。
- b. 会議の間、ジャッジには自分の意見を述べることを勧める。会議が、競技会での疑問のある採点に対する批判に使われることはない。会議では、競技のジャッジング、装置の改良、印刷したジャッジの採点、内外に向けての伝達の流れについて論じ、その場で要約する。

4. 競技報告

- a. イベントレフェリーとテクニカルコントローラーは、競技会の標準形式でレポートを作成する。そこでは、次の範囲が示されていること。
 - 組織の水準
 - 各競技のスケートの水準
 - 採点の水準

- 競技のタイミング
- ジャッジの新システム運用能力に関する注意
- (必要ならば)さらに注意
- (シングル・ペアで)ボーナスを与えた場合、その要素の詳しい定義と想定される配点
- 改良の提案

イベントレフェリーは、遅れないよう(すなわち、競技会後 14 日以内)に、レポートを ISU 事務局へ送付すること。

- b. (シングル・ペアで)ボーナスが与えられた場合、テクニカルコントローラーは直ちに、その要素の説明と想定される配点に関する注意を作成しなければならない。その注意は、競技が終了次第、ISU 事務局へファックスすること。それは ISU 事務局が、その後の競技のテクニカルコントローラーに利用できるようにする。ISU 事務局は確実に、この通知を組織内部のしかるべきところへ配布する。これにより、同じ要素・ボーナスが再び行われた場合に、矛盾のない配点が適用される。

5. ジャッジの検査と処罰

- a. 各競技後ジャッジは、各選手に対するジャッジの詳細を印刷したものを受け取る。これには、すべてのジャッジが採点した各要素に対する演技の質(GOE)、プログラム構成要素に対する点数が順不同で(特に ISU 選手権大会、ISU グランプリ大会、オリンピックとその予選会ではジャッジの名前を特定できないように)示されている。
- b. 審判評価委員会(OAC)が、理事会によって任命される。OAC は異なる国の ISU レフェリーで構成され、理事会があらかじめ定めた数学的基準により検出された明らかな異常について検査する。
- c. ISU 選手権大会、ISU グランプリ大会(シニア)でこの検査は、可能ならば競技会終了直後その場で、会長に任命された 2 人の OAC 委員が行う。その他すべての国際競技会については、各種目ごとになるべく早く 2 人の OAC 委員が行う。
- d. OAC は競技ごとに、ジャッジ、イベントレフェリー、技術審判による深刻なエラーやバイアスについてのレポートを作成する。このレポートは、ジャッジングに関しては技術委員会が、テクニカルスペシャリスト・テクニカルコントローラーによる技術的な判定に関しては事務局・理事会がすぐに利用する。技術委員会は評価に関する規定に従って、OAC レポートの評価を進展させ、直ちに理事会へ追加レポートを送る。技術委員会(ジャッジングに関して)または理事会(テクニカルスペシャリスト・テクニカルコントローラーによる技術的な判定に関して)は、深刻なエラーやバイアスの判定について同意できない場合、OAC と相談する。それでも同意できなければ、未解決問題は最終的には理事会が決定する。
- e. このような査定が重なれば、現存する規定に従って、そのジャッジは降格または資格停止にされ、ISU 事務局を通じて各技術委員会からその旨がジャッジに通知される。ジャッジは査定について、3 人以上の技術委員の前で弁明する権利が与えられる。ビデオテープを用いて立証してもよい。ジャッジの弁明により発生する出費は、弁明が受け入れられたかどうかによらず、各技術委員会による査定が確定すれば、そのジャッジが支払う。